

腹腔鏡下脾臓摘出術

特発性血小板減少性紫斑病（ITP）、球状赤血球症、脾臓腫瘍などの患者さんにおいて脾臓摘出が治療手段になる場合があります。最近では、傷が小さく身体への負担が少ない腹腔鏡手術による脾臓摘出が可能となっております。この手術は対象疾患が少ないため経験のある外科医が少ないのが現状ですが、当科では多数の腹腔鏡下脾摘術の経験を有する医師が主に手術を担当しております。脾臓摘出には血小板を増加させる効果があり、C型肝炎に対するインターフェロン療法を行う際に血小板減少を防ぐために、腹腔鏡下脾臓摘出術を行って血小板を増加させる治療にも対応しております。